

2020年6月25日
三井化学株式会社

三井化学、ポジティブ・インパクト・ファイナンスのシンジケート・ローン契約締結

三井化学株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：橋本 修）は、三井住友信託銀行株式会社（本社：東京都千代田区、取締役社長：橋本 勝）との間で、国連環境計画・金融イニシアティブ（以下、「UNEP FI」）（※1）が提唱したポジティブ・インパクト金融原則（※2）に即した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（資金用途を特定しない事業会社向け融資タイプ）」の融資契約を締結いたしました。










ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「PIF」）は、企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響とネガティブな影響）を包括的に分析・評価し、当該活動の継続的な支援を目的とした融資です。企業の活動、製品、サービスによるSDGs達成への貢献度合いを評価指標として活用し、情報開示することが最大の特長です。

シンジケート・ローンの概要

契約締結日	2020年6月25日
アレンジャー／エージェント	三井住友信託銀行
組成金額	150億円
資金用途	運転資金
貸出人（五十音順）	池田泉州銀行、滋賀銀行、中京銀行、百五銀行、百十四銀行、横兵銀行、三井住友信託銀行 他

三井化学グループは「環境と調和した共生社会」、「健康安心な長寿社会」、「地域と調和した産業基盤」の実現を目指し、ESG要素の経営・戦略への組み込みを積極的に行っています。特に、環境貢献価値 Blue Value[®]、QOL向上価値 Rose Value[®]（※3）の提供により、事業活動を通じて社会価値を創造し、SDGs達成に貢献しています。

締結にあたり、特にSDGsの目標達成にインパクトを与える以下のテーマについて、定性的、定量的に評価されています。

テーマ	内容	KPI（指標と目標）	SDGs
Blue Value [®] 製品を通じた社会、環境、経済への貢献	自然エネルギー・非化石原料の使用、製品の軽量化・長寿命化を通じたGHG削減、省エネ・省資源の実現	<ul style="list-style-type: none"> Blue Value[®]製品売上高比率 30%以上 Blue Value[®]新規認定件数 Blue Value[®]製品関連投資 	    
Rose Value [®] 製品を通じた社会、環境、経済への貢献	少子高齢化への対応、健康寿命の延長、食料問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> Rose Value[®]製品売上高比率 30%以上 Rose Value[®]新規認定件数 Rose Value[®]製品関連投資 	   

<p>環境保全 (GHG・エネルギー、化学物質等の排出量削減)・化学物質管理</p>	<p>省エネルギーの推進、燃料転換、プロセス革新技術の創出</p>	<p>・2030年度までのGHG排出量削減率：▲25.4%以上(2005年度比) ・エネルギー原単位低減率：5年平均1%以上継続 ・最新の安全性情報提供：100%継続</p>	
<p>労働における安全・保安および衛生</p>	<p>無事故・無災害実現の徹底追求</p>	<p>・重大事故発生数ゼロ継続 ・重視する労働災害の度数率：0.15以下継続</p>	
<p>人材の活用</p>	<p>人的生産性・満足度の最大化</p>	<p>・女性管理職(課長級以上)比率(本体)：10%以上 ・従業員エンゲージメント向上</p>	

これらの取り組みの進捗・成果は、当社が発行する三井化学レポート等(※4)にて開示いたします。

なお、締結に当たり、株式会社日本格付研究所(本社：東京都中央区、代表取締役社長：高木 祥吉)より評価にかかる手続きのポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性について、第三者意見を取得しております(<https://www.jcr.co.jp/>)。

三井化学グループは、社会価値創造の取り組みを一層深化させ、グローバルに存在感のあるサステナブルな企業グループを目指してまいります。

(※1) 国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)

国連環境計画(UNEP)は、1972年に「人間環境宣言」及び「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関。UNEP FIは、UNEPと200以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展とESG(環境・社会・企業統治)への配慮を統合した金融システムへの転換を進めている。

(※2) ポジティブ・インパクト金融原則

UNEP FIが2017年1月に策定した、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた金融の枠組。企業がSDGsの達成への貢献をKPIで開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導く。融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングし、インパクトの継続を確認している。

(※3) 環境貢献価値 Blue Value[®]、QOL向上貢献価値 Rose Value[®]

三井化学グループが目指す未来社会の姿「環境と調和した共生社会」と「健康安心な長寿社会」実現のため、提供する製品・サービスの環境および社会への貢献を見える化し、その価値をステークホルダーの方々と共有できるようにしたもの。製品・サービスを用途別に独自の指標で評価し、環境貢献価値の高いものをBlue Value[®]製品、QOL向上貢献価値の高いものをRose Value[®]製品として認定している。

https://jp.mitsuichemicals.com/jp/sustainability/mci_sustainability/contribution_value/index.htm

(※4) 三井化学レポート <https://jp.mitsuichemicals.com/jp/ir/library/ar/index.htm>

三井化学 WEB サイト サステナビリティ (ESG レポート) <https://jp.mitsuichemicals.com/jp/sustainability/index.htm>

以上

<本件リリースに関するお問い合わせ先>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部 (TEL : 03-6253-2100)